「地域で生きる」とは

活動先：愛光園　知多地域障害者生活支援センター　らいふ
クラス：松下　典子　先生

1．自分の成長、気づきとグループワーク

サービスラーニングを通して、自分が行動しなければ何も得ることはできないことを学んだ。サービスラーニングは自分で考え、行動し、学びにつなげていくことが基本である。また、何もしなければ、何も始まらない。自分から積極的に介入していくことが大事だと気付いた。まず現場に介入し、情報をつかむことが必要である。ただ座って講義を受けていても、実際に現場で起きている問題に気づくことはできないし、そこで活動している人と関わり、話を聞いてみなければ地域のことも、活動の問題も何も知ることはできない。現場に入って初めて見えてくることもあるし、新たに問題を見つけることもある。活動を毎日繰り返すことで、日々新たな発見や問題の気付きがあり、自分で考え、調べることで、次の活動に活かすことができる。自分が学ぶ気がなければ、発見もない。現場が最大で最高の教科書であることに気づくことができた。

私の活動した「らいふ」では、障害児を支援している。障害児は一人遊びが主なため、傍にいればいいといえばそれまでだ。しかし、それでは障害児の特性やコミュニケーションの取り方を学ぶことはできない。自分から相手に介入し関わらなければ何も得ることはできないのだ。まずは寄り添うことから始め、少しずつ声かけを行うことで、関わりを持つことができた。毎日違う子どもたちと関わる中で、同じ関わりをしていては、うまくコミュニケーションが取れないことも気づいた。それぞれの持つ特性を理解し、相手にあった方法で関わることが障害児支援には重要だと思った。また、わからないことはすぐに聞くことの重要性に気づかされた。今までの私はわからないことはわからないままにしていることが多かった。活動していく中で、障害児との関わりは私の経験だけでは通用しないことが多く、わからないことばかりだった。そんな時、スタッフさんやサポーターの人に聞くことで、関わり方を教えてもらい、障害児とコミュニケーションをうまく取ることができた。わからないままにしていてもずっとわからないままなので、考えてもわからなかったら、人に聞いて自分の視野を広げることが必要である。わからないことを一つずつ解消することで、それが自分の新たな知識となり、さらに視野が広がる。そうすることでまた違った視点から物事を考えられるようになった。自分からみる視点だけでなく、活動先、地域など様々な視点からとらえることで、問題解決へと繋がっていくこと分かった。

もう一つグループワークを通して情報を「共有する」ことの大切さを学んだ。クラスの仲間をはじめ、先生や活動先、地域と共有すること。自分の考えを伝え、仲間と共有し、視野を広げる。共有することで見えてくるものは多くある。自分の持つ情報を共有し、お互いが理解し合うことで、課題が見え、解決策を見出すことができる。私たち一人の力ではどうすることもできないことが、できるようになるのだ。どんなにひとりで頑張ろうと

しても限界はある。活動先での実践で、私たちはフルーチェ作りを行った。本来１日２人で活動するところを１日だけ全員受け入れてもらい、4 人で協力して行わせてもらった。なかなか共同作業が苦手な障害児たちが一緒になって行うことができた。活動先の方も、今までやったことはなかったが、これからこういうこともやってみたい、と言っていただくことができ、私たちの活動が新たな道を開くきっかけづくりになったと感じる。まずグループで共有し、さらに活動先の方と共有したことで、この実践が行えたと思う。
私は１年間を通して、考えるだけでなく、積極的に行動すること、さらに目的を共にする仲間と情報を共有することが最も大事であることに気づくことができ、多くの面で成長することができた。サービスラーニングで身に付けた積極性をこれからのゼミ活動やフィールドワークにつなげ、積極的に福祉現場に飛び込んで行きたいと考える。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

NPO の活動はまだまだ地域住民にとって身近なものではなく、知られていないと思う。NPO はもっと地域との関わりを増やすべきだと考える。地域ニーズに応えて地域の中に存在するのが NPO であるが、そのニーズにつながっていない人がいかに NPO の活動に関心を持つかが重要になってくると思う。地域住民が気軽に NPO の活動に参加し、支える仕組みができれば、さらに活動の幅が広がると感じた。そのためにも、近くにある NPO 同士が協力し合い、地域住民が参加できるような祭りの企画等を行い、NPO を知ってもらう機会を作っていくことが必要だと考える。

また、私の活動した「らいふ」では、障害者自立支援法の制度内で、日中一時支援を行っている。しかし、利用者のニーズに応えてさらに質の良いサービス提供をしようとなると、制度外で行うことになってしまい、利用料が高くなり、結局利用者への重い負担となってしまうことになる。この課題を解決するには、法律の改正が必要になってくる。もっと国が現状を理解し、国民のニーズを把握する必要がある。さらに福祉職の場合、職員の低賃金のため、人員が不足している現状にある。特に自閉症の障害児は、4 対 1 の割合で男の子が多い。このため、成長していく上で、男の子の生活支援の現場では体力的対応も必要であり、女性職員だけでは、なかなかカバーしきれなく、若い男性の職員を求めているが、このような現状なため、人員の確保ができていないという問題を抱えている。

これからの社会では、地域の中で支援する重要性がかなり求められているため、NPO の役割は大きくなっている。また住民の福祉ニーズが拡大していくなかで「共生」が大きなポイントになってくると思う。地域で様々な問題を抱える人たちを支えていくためにも、地域住民の協力なしでは行うことができない。「共生」していくためには住民間で交流を深めなければならない。そこで NPO が交流の場の役割を担えば、NPO の存在を知ってもらう機会にも繋がる。ただ地域の中に NPO が存在するのではなく、NPO が中心となって地域づくりを行うことで、自然と「共生」が成り立っていくと考える。そして地域の一人ひとりが社会資源であることを理解し、NPO の役割や重要性を知っている人たちが積極的に行動し、情報を共有することを行い、活動を広げていくことが今後の課題であると考える。